

保温資材を用いたカンパニュラの冬期間無加温栽培

福島県農業総合センター浜地域研究所

1 部門名

花き-カンパニュラー作型・栽培型

2 担当者

三田村敏正・門田敦生・斎藤幸平

3 要旨

カンパニュラは浜通りにおいて施設内で冬期間無加温栽培することができ、保温資材として農業用ビニール、農業用POフィルムを用いることによって切り花品質が向上する。

- (1) 栽培施設には外張りおよび内カーテンとして農業用POフィルムを展張し、さらに保温資材を用いる。
- (2) 夜間の最低温度は、被覆期間中平均で、農業用ビニールが3.3℃、農業用POフィルムで2.7℃、不織布で2.0℃であり、無処理区は1.3℃であった。
- (3) 保温資材として農業用ビニール、農業用POフィルムを用いると、採花時期はやや早くなり切り花長が長くなる(表1)。
- (4) 規格別収量割合では、農業用ビニール、農業用POフィルムを使用すると2Lの割合が不織布、無処理よりも多くなる(図1)

表1 保温資材を用いたカンパニュラの切り花品質

試験区	採花時期			切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数	茎径 (mm)
	始期	盛期	終期				
農ビ	3月14日	3月17日	3月22日	79.8a	67.9	20.7	8.33
農PO	3月16日	3月19日	3月22日	79.4a	69.3	20.8	8.48
不織布	3月17日	3月22日	3月25日	75.0b	71.6	20.9	8.60
無処理	3月19日	3月22日	3月28日	72.5b	73.1	20.6	8.94

品種: チャンピオン・スカイブルー、播種: 2015年10月15日、定植: 2015年11月26日

農ビは農業用ビニール(厚さ0.1mm)、農POは農業用POフィルム(厚さ0.075mm)

試験区は内カーテン+保温資材、無処理は内カーテンのみ。内カーテンは2015年12月1日から採花終了まで夜間のみ展張し、保温資材は2015年12月21日から2016年3月15日まで夜間のみ被覆した。

切り花長は、Tukey-kramerの多重比較検定により異符号間で有意差(5%)あり。その他の項目は有意差なし。

採花時期は、始期が10%、盛期が50%、終期が90%を超えた時とした。

定植直後から頂花発蕾まで電照を行い、電球型蛍光灯(23W)を10㎡に1球設置。電照時間は23時~1時の2時間とした。

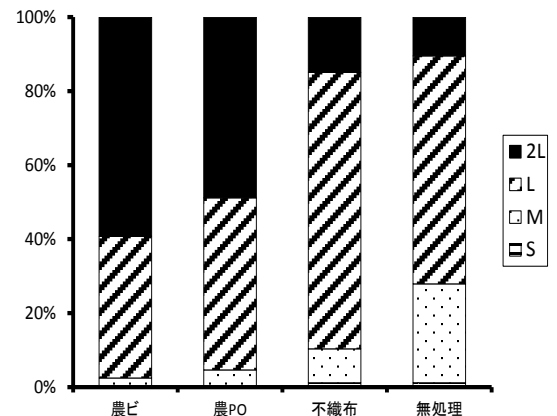


図1 保温資材の違いによる規格別収量割合

品種: チャンピオン・スカイブルー。

2Lは80cm、Lは70cm、Mは60cm、Sは50cm。

農ビは農業用ビニール、農POは農業用POフィルム。

内カーテンは2015年12月1日から採花終了まで夜間のみ展張し、保温資材による被覆は、2015年12月21日から2016年3月15日まで夜間のみ行った。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成25年度~29年度
- (2) 研究課題名 浜通りの気象条件下におけるカンパニュラの効率的栽培技術
- (3) 参考となる成果の区分 (参考)

5 主な参考文献・資料

(活用した事業名: 農林水産省 食料生産地域再生のための先端技術展開事業)